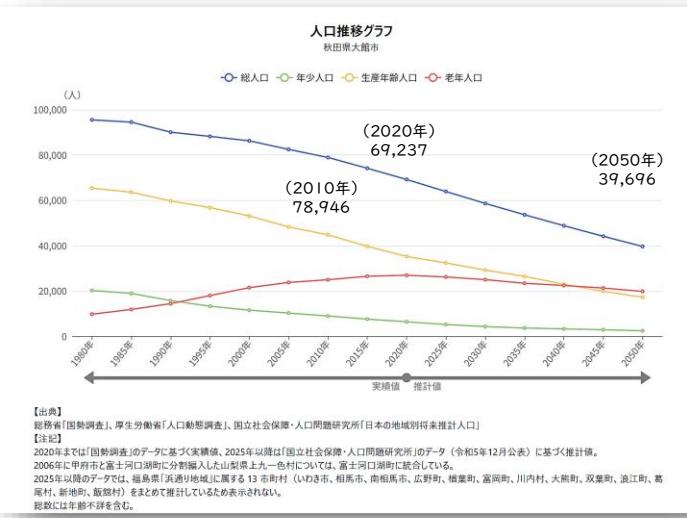


RESAS

を分析してみよう

秋田県
大館市

人口



RESAS(地域経済分析システム)は、地域経済に関する様々なデータ(産業の強み、人の流れ、人口動態など)をグラフで分かりやすく「見える化(可視化)」したシステムです。データに基づいた地域の実情を把握・分析できるので、ぜひ参考にしてみてください。

<https://resas.go.jp>

RESAS



年齢別人口推移

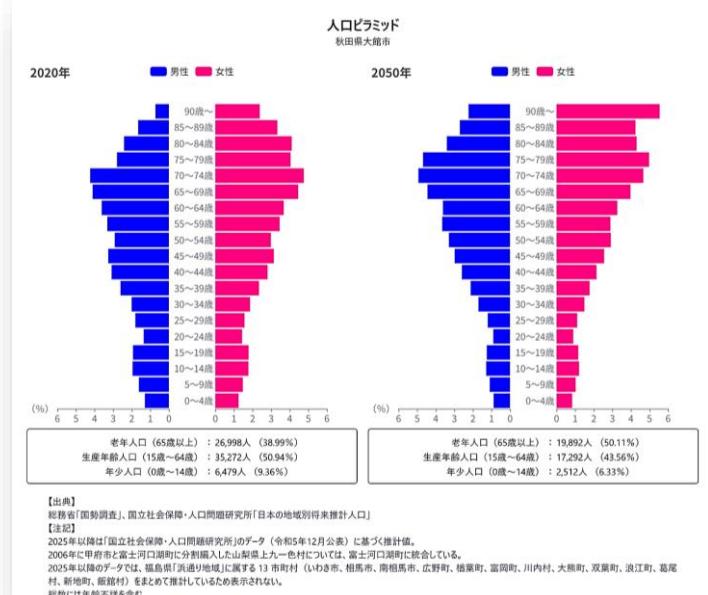
2020年の人口は総人口69,237人。10年前(2010年)の78,946人と比較すると12.3%減少しており、2050年にかけてさらに減少傾向が続く見込みである。また、年齢別に将来の傾向をみると、年少人口、生産年齢人口、老年人口全てが減少しているが、特に生産労働人口の減少傾向は大きく、比較して老年人口割合が増加する傾向にある。

よって、少子高齢化が一層進んでいく地域である。

※年少人口は15歳未満、生産年齢人口は15~64歳、老年人口は65歳以上をさす。

人口ピラミッド

現在と将来の年齢別人口構成を示したグラフである。2050年の人口ピラミッドは「つぼ型」である。老年人口の割合をみると、2020年の38.99%から2050年には50.11%まで増加する。また、生産年齢人口は2020年の50.94%から43.56%まで減少する見込みである。



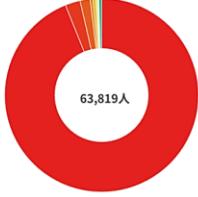
* 人口マップ→人口構成分析→人口ピラミッド

人口

昼間人口・夜間人口の地域別構成割合
2020年 秋田県 大館市

昼間人口：63,819人
夜間人口：62,758人
(昼夜間人口比率：101.69%)

昼間人口
(指定地域内に日中現在する人の居住地)



- 1位 秋田県大館市 59,936人 (93.92%)
- 2位 秋田県北秋田市 1,599人 (2.31%)
- 3位 秋田県能代市 1,067人 (1.67%)
- 4位 秋田県鹿角市 288人 (0.45%)
- 5位 秋田県南小矢部市 263人 (0.41%)
- 6位 秋田県秋田市 160人 (0.25%)
- 7位 青森県弘前市 122人 (0.19%)
- 8位 秋田県由利本荘市 33人 (0.05%)
- 9位 青森県平川市 31人 (0.05%)
- 10位 秋田県潟上市 23人 (0.04%)
- その他 297人 (0.47%)

【出典】

総務省「国勢調査」

【注記】

昼間人口：この画面においては、就業者または通学者が從業・通学している從業地・通学地における15歳以上の人口であり、従業地・通学地集計の結果を用いて算出された人口を示す。

算出方法：地図に表示される人口 = 「地図から勤務者又は通学者として流出する人口」 + 「その地域へ通勤者又は通学者として流入する人口」

テレワーク勤務に類似は、定義上ふだんからテレワーク勤務が半分未満の場合は勤め先の所在地が従業地となるため、「流出人口」「流入人口」に含まれるが、テレワーク勤務が半分以上の場合は、自宅を従業地とするため、「流出人口」「流入人口」に含まれない。

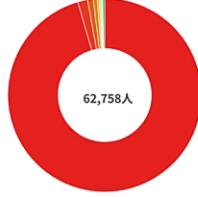
夜間勤務の者、就職の学校に通っている者も便宜上昼間就業者・昼間通学者とみなして昼間人口に含めているが、買物客などの非定常的な移動については考慮していない。

夜間人口：この画面においては、地図に常住している15歳以上の人口である。

昼夜間人口比率：この画面においては、夜間人口100人当たり（15歳以上）の昼間人口（15歳以上）の割合であり、100を超えていたときは道勤・通学人口の流入超過、100未満だったときは流出超過を示している。

「平成22年国勢調査」による数値にして、平成22年10月1日以降に合併した若干県一関市（一関市、藤沢町）、板木県板木市（板木市、西町、岩舟町）、埼玉県川口市（川口市、埼ヶ谷町）、愛知県西尾市（西尾市、一色町、吉良町、及び緑豆町）、島根県松江市（松江市、東出雲町）、島根県出雲市（出雲市、斐川町）の6自治体については、各町村合併を考慮した調整を実施している。

夜間人口
(指定地域内に居住する人の居住地)



- 1位 秋田県大館市 59,936人 (95.50%)
- 2位 秋田県北秋田市 1,025人 (1.63%)
- 3位 秋田県鹿角市 603人 (0.96%)
- 4位 秋田県小矢部市 396人 (0.63%)
- 5位 青森県弘前市 196人 (0.31%)
- 6位 秋田県能代市 151人 (0.24%)
- 7位 秋田県秋田市 128人 (0.20%)
- 8位 宮城県仙台市 44人 (0.07%)
- 9位 青森県青森市 35人 (0.06%)
- 10位 岩手県奥州市 23人 (0.04%)
- その他 221人 (0.35%)

滞在人口 (2020年)

昼間人口と夜間人口を地域別構成割合で示したグラフである。

大館市の昼間人口は63,819人、夜間人口は62,758人である。昼夜間人口比率101.69%と、通勤・通学等での人口流入が多いことがわかる。昼夜共に滞在人口の中で、もっとも多い居住地は大館市である。

*15歳以上の人口を対象として算出している。

【出典】

総務省「国勢調査」

【注記】

昼間人口：この画面においては、就業者または通学者が從業・通学している從業地・通学地における15歳以上の人口であり、従業地・通学地集計の結果を用いて算出された人口を示す。

算出方法：地図に表示される人口 = 「地図から勤務者又は通学者として流出する人口」 + 「その地域へ通勤者又は通学者として流入する人口」

テレワーク勤務に類似は、定義上ふだんからテレワーク勤務が半分未満の場合は勤め先の所在地が従業地となるため、「流出人口」「流入人口」に含まれるが、テレワーク勤務が半分以上の場合は、自宅を従業地とするため、「流出人口」「流入人口」に含まれない。

夜間勤務の者、就職の学校に通っている者も便宜上昼間就業者・昼間通学者とみなして昼間人口に含めているが、買物客などの非定常的な移動については考慮していない。

夜間人口：この画面においては、地図に常住している15歳以上の人口である。

昼夜間人口比率：この画面においては、夜間人口100人当たり（15歳以上）の昼間人口（15歳以上）の割合であり、100を超えていたときは道勤・通学人口の流入超過、100未満だったときは流出超過を示している。

「平成22年国勢調査」による数値にして、平成22年10月1日以降に合併した若干県一関市（一関市、藤沢町）、板木県板木市（板木市、西町、岩舟町）、埼玉県川口市（川口市、埼ヶ谷町）、愛知県西尾市（西尾市、一色町、吉良町、及び緑豆町）、島根県松江市（松江市、東出雲町）、島根県出雲市（出雲市、斐川町）の6自治体については、各町村合併を考慮した調整を実施している。

*人口マップ→通勤通学人口分析→地域間流動

流入者数・流出者数の年齢階級別構成割合

2020年 秋田県 大館市
流入者数：3,912人
流出者数：2,825人
(流入超過数：1,087人)

流入者数



- 1位 45～49歳 458人 (11.71%)
- 2位 50～54歳 434人 (11.09%)
- 3位 15～19歳 433人 (11.07%)
- 4位 55～59歳 414人 (10.58%)
- 5位 40～44歳 386人 (9.87%)
- 6位 35～39歳 340人 (8.69%)
- 7位 60～64歳 321人 (8.21%)
- 8位 25～29歳 302人 (7.72%)
- 9位 30～34歳 289人 (7.39%)
- 10位 20～24歳 267人 (6.83%)
- その他 268人 (6.85%)

流出者数



- 1位 45～49歳 360人 (12.74%)
- 2位 40～44歳 320人 (11.33%)
- 3位 50～54歳 308人 (10.99%)
- 4位 55～59歳 305人 (10.89%)
- 5位 35～39歳 274人 (9.70%)
- 6位 30～34歳 269人 (9.52%)
- 7位 60～64歳 237人 (8.39%)
- 8位 65歳以上 219人 (7.75%)
- 9位 20～24歳 195人 (6.90%)
- 10位 30～34歳 177人 (6.27%)
- その他 161人 (5.70%)

流入・流出者数 (2020年)

大館市内外への流入・流出者数を年齢階級別構成割合で示したグラフである。流入超過数が1,087人と市内への流入者が多い地域であることがわかる。また、流入者数、流出者数、共に45～49歳がもっとも多くなっている。

【出典】

総務省「国勢調査」

【注記】

通勤者：この画面においては、15歳以上の自宅以外の場所で就業する者をいう。

ただし、ふだんからテレワーク勤務が半分未満の場合は、勤め先の所在地が従業地となるため、通勤者に含まれるが、テレワーク勤務が半分以上の場合は、自宅を従業地とするため、通勤者には含まれない。

通勤者・通学者：この画面においては、15歳未満も含む通勤者（自宅以外の場所で就業する者）と15歳未満も含む通学者（主に高等学校や専修学校、各種学校に通学する者）の合計を指す。

ただし、ふだんからテレワーク勤務が半分未満の場合は、勤め先の所在地が従業地となるため、通勤者に含まれるが、テレワーク勤務が半分以上の場合は、自宅を従業地とするため、通勤者には含まれない。

この画面において、流入者数、流出者数、流入超過数、流出超過数には、特別区間および同じ政令指定都市内の行政区間の流入者数・流出者数は含まれていない。

「平成22年国勢調査」による数値にして、平成22年10月1日以降に合併した若干県一関市（一関市、藤沢町）、板木県板木市（板木市、西町、岩舟町）、埼玉県川口市（川口市、埼ヶ谷町）、愛知県西尾市（西尾市、一色町、吉良町、及び緑豆町）、島根県松江市（松江市、東出雲町）、島根県出雲市（出雲市、斐川町）の6自治体については、各町村合併を考慮した調整を実施している。

*人口マップ→通勤通学人口分析→属性別流動

人口

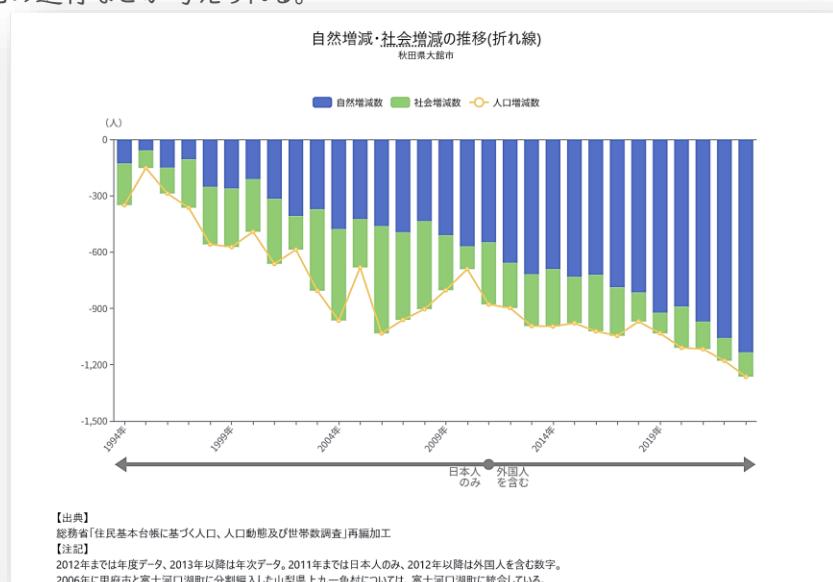
年齢階級別純移動数時系列分析

年齢階級別純移動数の時系列推移は、主に大学進学時(15~19歳→20~24歳)に人口が流出し、就職時(20~24歳→25~29歳)に人口が少しづつ流入する。以降、高齢層まで移動数が少ない、定住傾向が強い地域であると考えられる。



自然増減・社会増減の推移

自然増減数(出生数から死亡数を引いた値)と社会増減数(転入者数から転出者数を差し引いた数値)の推移を示したグラフである。2006から2010年に人口減少が一時的に緩和した理由は、市町村合併後の転入増・住民移動の安定、若年層の転出が減少(リーマン前)の全国的な雇用改善期)、地元産業の雇用安定、自然減がまだ小さかったなどが考えられる。2011年以降に人口減少が再加速した理由は、東日本大震災後の地域経済の停滞、団塊世代の高齢化による死亡数の急増、若年層の進学・就職による県外流出増、地元企業の縮小、人手不足、全国最速レベルの少子化の進行などが考えられる。



*人口マップ→人口増減分析→グラフ

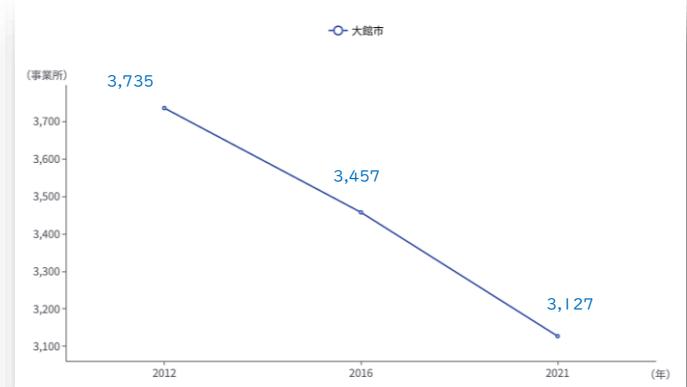
産業構造



*産業構造マップ→産業構造分析→産業構成(事業所数)

事業所数(事業所単位)大分類(2021年)

業種ごとの事業所数を上位順に示したグラフである。もっとも多いのは「卸売業,小売業」の827事業所で、全体の26.4%を占めている。その後「生活関連サービス業, 娯楽業」の339事業所の10.8%が続く。



*産業構造マップ→産業構造分析→推移(事業所数)

事業所数の推移(2021年)

事業所数の推移を見る。

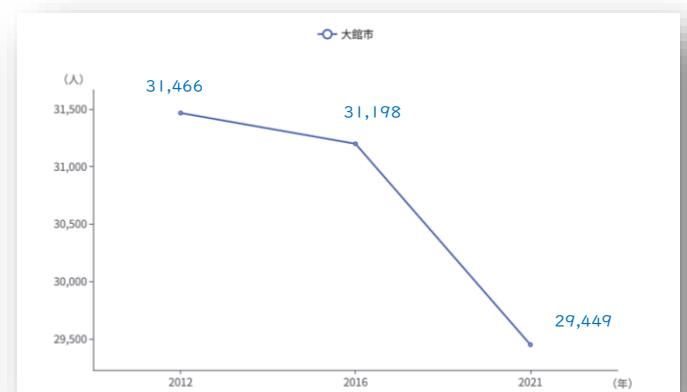
2021年は3,127事業所であり、5年前の2016年は3,457事業所だったので、比較すると9.5%減少している。



*産業構造マップ→産業構造分析→産業構成(従業員数)

従業者数(2021年)

業種ごとの従業者数を上位順に示したグラフである。もっと多いのは「製造業」の6,947人で、全体の23.6%を占めている。その後「卸売業,小売業」の5,967人の20.3%が続く。



*産業構造マップ→産業構造分析→推移(従業員数)

従業者数の推移(2021年)

従業者数の推移を見る。

2021年は29,449人、5年前の2016年は31,198人だったので、比較すると5.6%減少している。また、2012年と比較すると6.4%減少している。



*地域経済循環マップ→生産分析→地域産業の構造

地域内産業の構成割合(2018年)

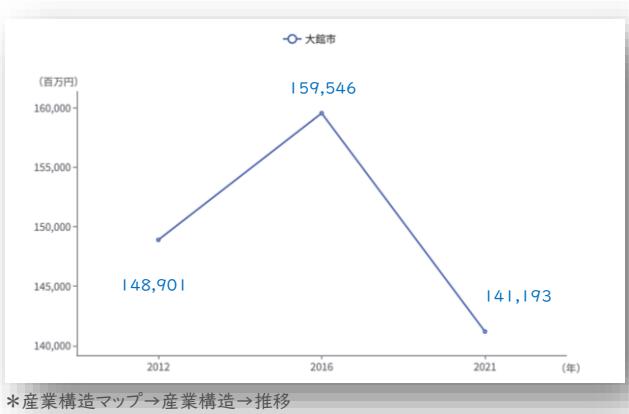
大館市の生産額を指標に産業の構成割合を全国および秋田県と比較したグラフである。3次産業の割合が58.3%であり、全国および秋田県平均と比べて低い。一方、2次産業の割合は、38.8%と全国平均より低く、秋田県平均に比べて高い。

*1次産業…農業、林業、漁業など

*2次産業…製造業、建設業、工業など

*3次産業…商業、金融業、医療・福祉・教育などのサービス業や、外食産業・情報通信産業など

小売業・卸売業



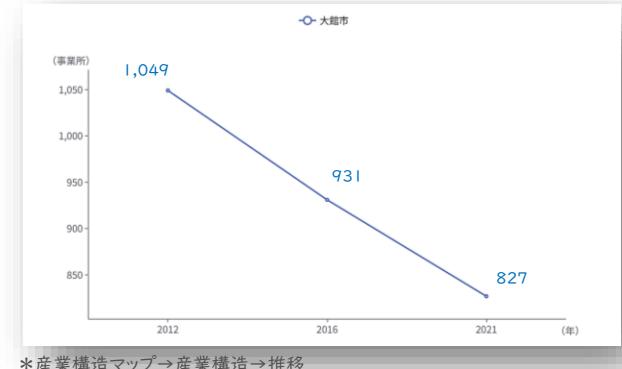
売上高(小売業・卸売業)の推移 (2021年)

小売業・卸売業の売上高の推移を示したグラフである。2021年の売上高は141,193百万円である。9年前の2012年と比較すると148,901百万円なので、5.2%減である。

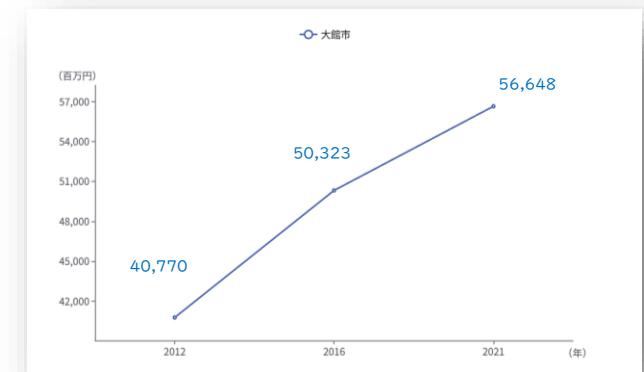
2012から2016年に売上高が増えた理由は、景気回復で消費が増加、商業施設の更新・ドラッグストア等の出店増、観光・イベントによる集客効果があったことなどが要因として考えられる。2016から2021年に売上高が減った理由は、人口・若年層の減少で地元消費が縮小、ECシフトによる実店舗売上減に加え、コロナで小売・卸売ともに大幅ダウンしたことなどが要因として考えられる。

事業所数(小売業・卸売業)の推移 (2021年)

小売業・卸売業の事業所数の推移を示したグラフである。2021年の事業所数は827事業所、2016年は931事業所であり、2016年と比較すると、11.2%減となっている。



製造業



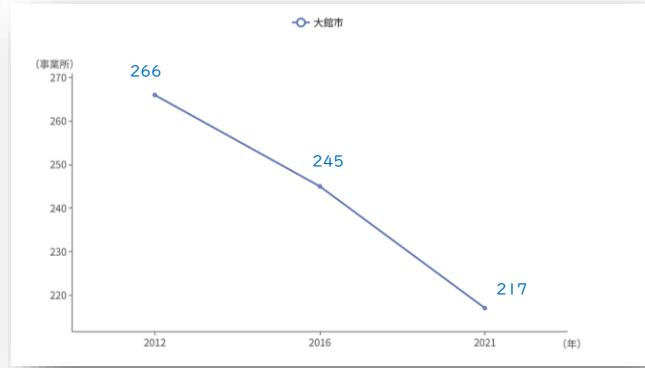
売上高(製造業)の推移 (2021年)

製造業の売上高の推移を示したグラフである。2021年の売上高は、56,648百万円である。9年前の2012年と比較すると40,770百万円なので、38.9%増である。

2012から2021年の売上高増加は、円安・景気回復で製造需要が増加、食品加工(比内地鶏など)の売上増、医薬・健康関連の需要増などが要因として考えられる。

事業所数(製造業)の推移 (2021年)

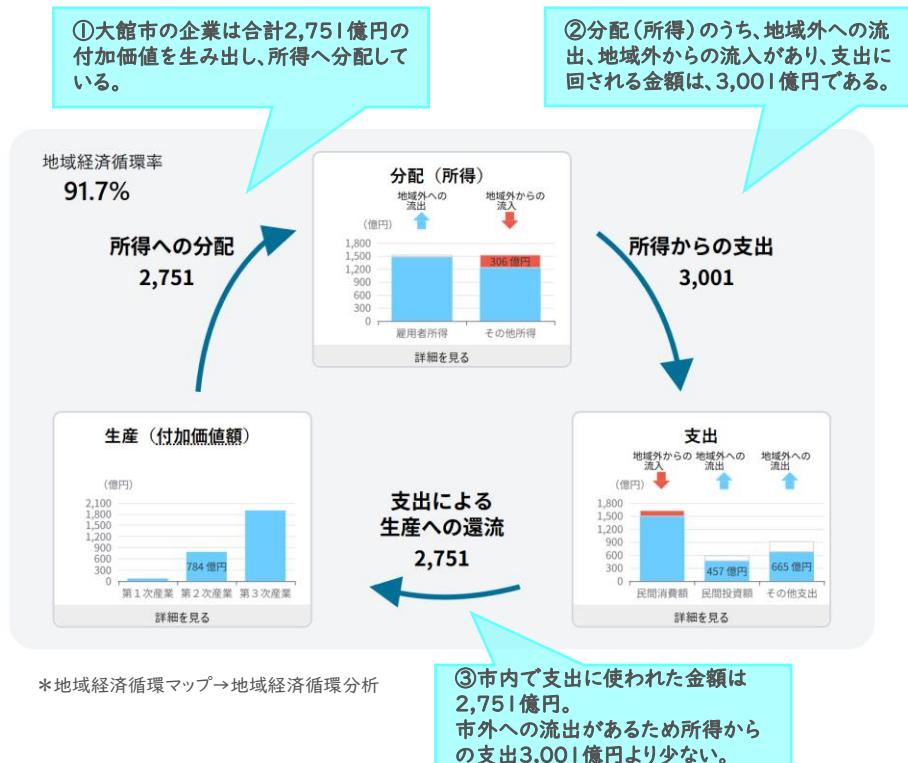
製造業の事業所数の推移を示したグラフである。2021年の事業所数は217事業所、2016年は245事業所であり、2016年と比較すると、11.4%減となっている。



地域経済循環

地域経済循環図 (2018年)

地域内企業の経済活動を通じて生産された付加価値は、労働者や企業の所得として分配され、消費や投資として支出されて、再び地域内企業に還流する。この流れを示したものが地域経済循環図である。



付加価値額の構造分析 (付加価値額順/2021年)

X軸に従業者数、Y軸に労働生産性で表される付加価値額(面積)のチャートである。付加価値額の要因が、労働生産性と従業者数のどちらの影響によるものなのかを把握する。大館市では、「卸売業、小売業」の付加価値額がもっとも大きく、「製造業」、「建設業」の順に続く。

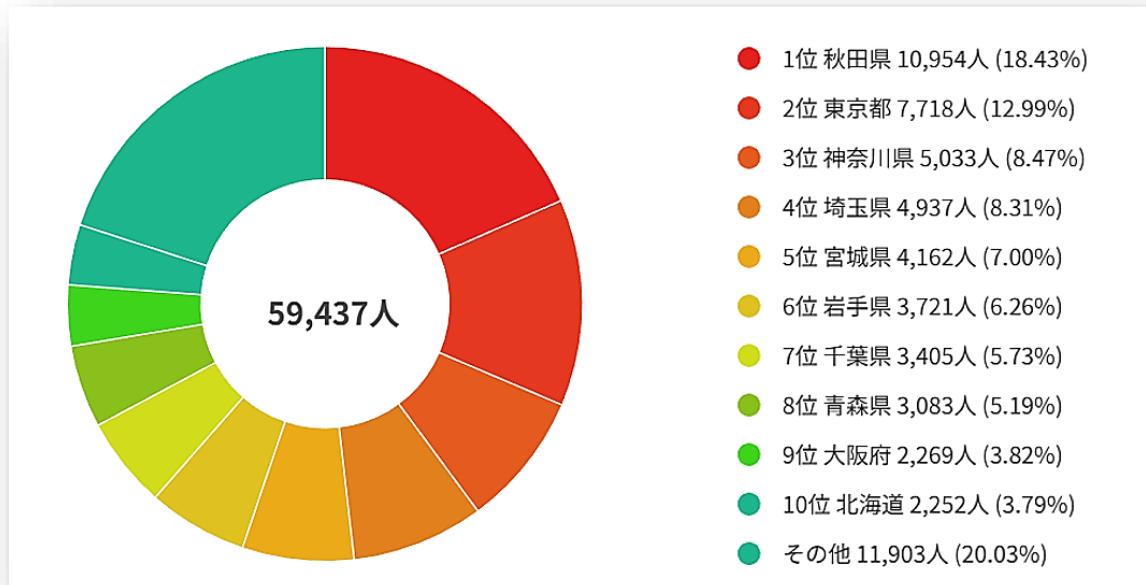


* 地域産業マップ → 産業構造分析 → 付加価値額の構造分析

観光

居住都道府県別の延べ宿泊者数（日本人）の構成割合（2024年）

居住都道府県別の延べ宿泊者数（日本人）の構成割合を示したグラフである。秋田県が18.43%ともっとも多く、東京都の12.99%、神奈川県の8.47%が続く。

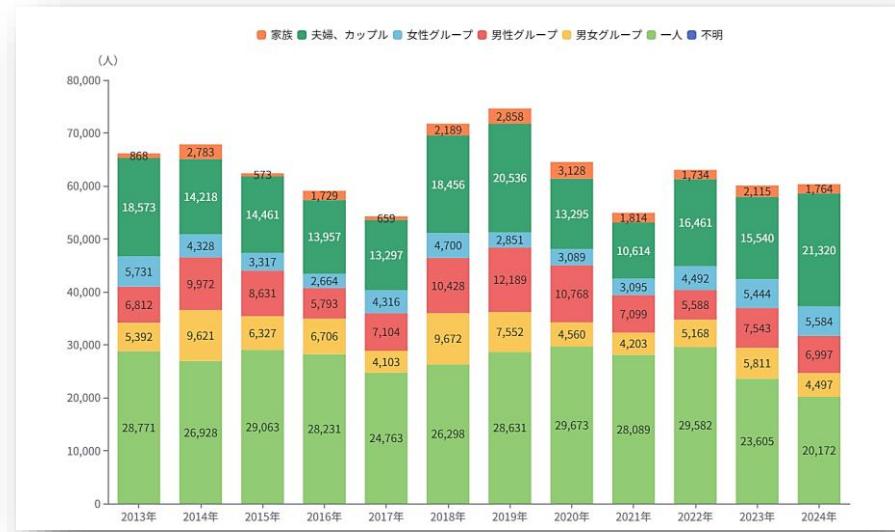


*観光マップ→宿泊者分析→居住別都道府県別

属性別の延べ宿泊者数（総数）の推移

延べ宿泊者数の推移を形態別に示したグラフである。

2024年では、もっとも多いのは、「夫婦、カップル」の21,320人、その後、「一人」の20,172人、「男性グループ」の6,997人と続く。



*観光マップ→宿泊者分析→属性別に見る

共同発行:大館商工会議所・大館北秋商工会・大館市